

谷川連峰：谷川岳雪山訓練（2）

- ◆日程 2022年12月17日（土）～18日（日）
 ◆メンバー L：ST、KT、OY、TY、YN、OM、OD、MD、WY

12月17日（土）曇り時々晴れ

戸塚駅前6:00集合、圏央道～関越は渋滞もなく9:30谷川ロープウェー駅に到着、現地合流したTY車、YN車とすぐに合流できた。今週初めに雪が降り積もり天神峠は膝下40cmの積雪だ。群馬県側から入ってくるサラサラの雪は訓練には打って付けである。早速アイゼン装着して幕営地に移動開始、今回はスキー組も参加していて、ザック両脇にスキーを固定して狭い夏道のトラバース道を進む。途中脇から伸びている枝に絡まり悪戦苦闘する。天神峠の分岐にある幕営場所には既に4張りのテントがあった。しかし、去年よりテン場が拡張されていて2張りなら充分張れるだけのスペースは確保できた。急いで整地を行い設営&共同トイレ架設を行い訓練の装備を整えた。1日目訓練、2日目谷川岳山頂の予定、天気予報は両日とも昼頃晴れとなっていた。12:30天神峠を目指す。尾根の途中に幕営地ができていたり、すれ違う登山者の数から、今日の谷川岳は多くの登山者に登られていると思った。天神峠から見下ろす斜面からは多くの雪山訓練をする者が見えていた。適当にトラバースして荷物をデポし、輪かんじきを付け歩行訓練から開始、ふかふかの雪でも装備ありなしで歩き易さの違いがよく判った。滑落停止訓練、まずは斜面に滑降路を付けたが雪が柔らかくて滑りが悪い、無理やり滑ってピッケルで滑落停止をする。実際は滑りだす前に滑らない様にする事が大事である。ザックを背負っていると回れる向きが限定されることなど改めて確認できた。ビーコン操作&搜索訓練、今回初雪山のKTさんに事前にビーコン操作を教える時間がなかったので現場で操作レクチャー、すぐに搜索練習となった。数台のビーコンを埋設し残りを搜索モードに切り替え、指針の方向に向かって進み目途を立ててプローブ操作、これを数回繰り返した、我々以外のビーコンも拾ってしまうが練習できないほど込み合っていない。最後に稜線で耐風姿勢の取り方をレクチャーする。15:00訓練終了。幕営地に戻り一息つき急ぎ夕食の支度をした。まずは雪から水確保を行い、鍋（とり塩味）を作っていく。鍋を食べきってから次の具材を追加していく方式で3回まわしてお腹一杯となる、更にケーキまで出現しクリスマスパーティーの夜となった。

12月18日（日）雪時々晴れ（登山班）

朝4:00起床、昨晚はテントに5人で寝たため随分と暖かく寝た。未明より少量の降雪があったが明け方小康状態となった。起床とほぼ同時に湯沸かし&朝食の準備、6:00出発、スキー組のMD、OM、YN、ODはリフト方面に転進し山スキー練習を、ST、OY、TY、WY、KTは谷川岳を目指し、まずは熊穴沢避難小屋を目指した。熊穴沢の頭で日の出となり雲の合間に晴れ間のある天候が壮観であった。上昇するにつれ視界が白くなっていき天狗の溜まり場で一息、先の大岩で更に一息とじりじりと肩の小屋に迫った。時折降雪、時々晴れ間の天候で視界が悪く肩の小屋が見えない。オベリスクの白い薄いシルエットを目指して到達、吹雪の中、山頂トマの標識で記念写真を撮りすぐさま肩の小屋に退散し、オキの耳には行くことは出来なかった。小屋で小休止を取り一気に幕営地まで降りた、途中、大勢の登山者とすれ違った。気が付けば晴天、先ほどの風雪は何だったのか。幕営地を撤収後、リフト乗り場まで行くとスキー組が誰もいないゲレンデにシュプールを描いていた。

（記：ST）

CT 1日目：リフト乗り場 11:00 - 幕営地 11:40 - 雪山訓練 13:00 / 15:00
 - 幕営地 15:20

2日目：幕営地 6:10 - 天狗の溜り場 8:10 - トマの耳 9:00 - 幕営地 11:20

谷川連峰：谷川岳雪山訓練 スキー班

◆日程 2022年12月17日(土)～18日(日)

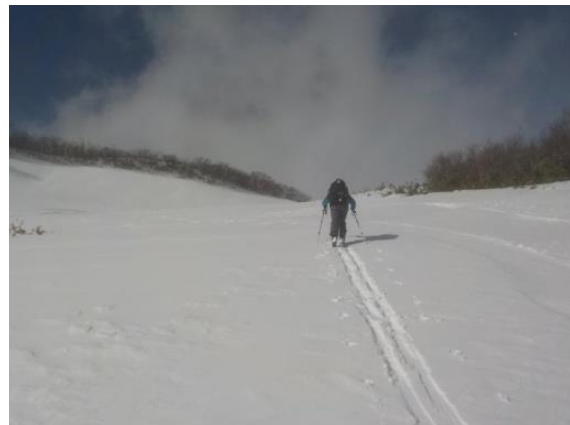
◆メンバー L:MD、YN、OD、OM

スキー班(上記メンバーで構成)は、初日、本隊と共に滑落停止等の練習。2日目は本隊をテント前で見送り、YNさんを講師役として、天神平にて山スキーの操作、シール歩行、新雪での滑走に関する訓練を行った。本隊と別行動の18日のみを記載する。

12月18日(日) 雪時々晴れ(スキー班)

幕営地でST本隊を見送り、シールを付けて天神平を目指す。やや下り気味のルート。シールのおかげで、滑っても自然に止まるが、シールによる緩慢なスピード感でバランスを崩しやすい。ひとたび転倒すると重い荷物で立ち上がりは困難だ。しかし、昨日、この道を木にスキーを引っかけたりしながら担き上げたことと比べれば、全くもって楽だ。

その後、グレンデをシールで神社まで上がった。今回、大枚をはたいて山スキー一式を神田あたりで揃えたODさんと私は登り斜面に対するシールの制動力、ビンディングの軽さに感激する。ODさんは登るのは相当楽しいらしく、「滑るより登る方が楽しい」と言う。通常、これは逆なので、いつか逆転するはずで、逆転は一定の上達が達せられた目安となるだろう。私は新しい兼用靴をなかなか履きこなせず、履けばどこかが痛くなっていたが、今回、ついに靴と和解できてうれしい。



その後、シールを外して滑走。しかし、新雪がふわふわでいつも通りにはいかない。YNさんから、「上半身(特に腕)から捻りを作り出すことでターンをするように」とコツを教わった。いったん、スキーがはずれてしまうと、思いのほか雪が深く、スキーの浮力を思い知ると同時に、そういった場合に再度スキーを付けなおすのが難しい。この部分を切り取った家での練習が必要だ。

練習が必要だ。

滑り切った後、しばらくの休憩。その間も、身振り手振りを加えてのYNさんの熱い指導を受けた。「斜滑降をしたときに外足に体重を加え股関節で押すが、同じ動きが太極拳にもあってそれはクワを入れるという」そうだ。また、「斜滑降の後、山側に向かってターンをして少し登るような動作を加えることでスピードをコントロールすることを山回りというが、山回りからのターンというのを知っておくべきだ」とのことだった。



その後、再度登り返す。MDさんの提案を受けて、斜面を斜めに登り、ある程度進んだらターンで向きを変えて登り出すということを意識してやった。そして下って行ったところ、ちょうど本隊も合流できることとなったので、それに合わせてスキー班の訓練も終わりとした。

この時期のこのようなスキー錬成は価値があり、あわよくば来年も続行したい。幕営地も近くてスキーにはいいところを見つけた。

(記:OM)